

## 高まるESG情報の重要性

—投資家から見たESG情報の類型とESG情報提供機関の役割・動向を中心に—

林 寿 和

### 目 次

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1. はじめに               | 4. ESG情報提供機関の役割・動向 |
| 2. 投資情報におけるESG情報の位置付け | 5. 終わりに            |
| 3. ESG情報の3種類の類型       |                    |

社会・環境問題の深刻化など企業経営を取り巻く外部環境変化に起因して、投資情報としてのESG情報の重要性が高まっている。投資家サイドの視点に立てば、企業のESG情報は「社会・環境問題に対する企業の認識・対応、コーポレートガバナンスの現状・改善等に関する情報」「企業の属性等に関する情報」「企業不祥事・企業批判に関する情報」の3種類に類型化することができる。ESG投資にかかるインベストメントチェーンにおいて、企業のESG情報を収集・加工・分析する役割は主にESG情報提供機関が担っており、当該情報がインベストメントチェーン全体へと供給されている。

### 1. はじめに

2015年10月、米国労働省が改訂を発表した年金基金の受託者責任に関する法令解釈通達（注1）において、いくつかの場合においてESG情報が財務的価値と直接関係し得ることを認めた上で、このような場合に年金運用においてESG情報を考慮することが適当である旨が明確化された。英国でも、14年7月、法律委員会による機関投資家等

の受託者責任に関する調査報告書（注2）が公表され、財務的価値に影響のあるESG情報を考慮することを妨げている法令上の障壁は存在しないと結論付けている。わが国でも、世界最大の年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の株式運用をめぐる、厚生労働大臣が「収益確保のため、非財務的要素であるESG（環境、社会、ガバナンス）を考慮することについて、検討する」（注3）よう指示を出している。



#### 林 寿和（はやし としかず）

日本総合研究所ESGスペシャリスト。2005年京都大学工学部卒業。10年エジンバラ大学大学院修了（経済学修士）、11年ケンブリッジ大学経営大学院修了（技術政策修士）。文部科学省勤務を経て、12年より現職。主に環境・社会・ガバナンスの観点からの企業評価を手掛け、ESG課題を考慮した投資や融資の実践を支援している。最近の主な論文に「日本の株式市場におけるショート・ターミズム（短期主義）の実証分析」（証券アナリストジャーナル、13年12月）、「中期経営計画の開示行為に対する株式市場の反応の検証：投資家は中期経営計画のどこを評価しているのか」（企業会計、14年7月）がある。